

# 気候変動への適応に関する調査 ～北海道産さつまいも栽培の課題と取組事例～

---

北海道開発局  
開発調査課

# 目次

1	さつまいもを取り巻く現状・課題	P 3
2	研究機関へのヒアリング結果	P13
3	生産者及び集出荷団体へのヒアリング結果	P17
4	まとめ	P32

令和6年3月に閣議決定された「第9期北海道総合開発計画」では、重点的に取り組む施策の一つとして「気候変動がもたらす機会を活用した新たな作物の導入」を掲げており、気候変動に適応した生産体制の構築による持続的な農林水産業の展開を図ることとしています。

近年、地球規模の気候変動の影響により、北海道では平均気温が上昇し、本州が主産地である「さつまいも」の作付けの増加がみられます。

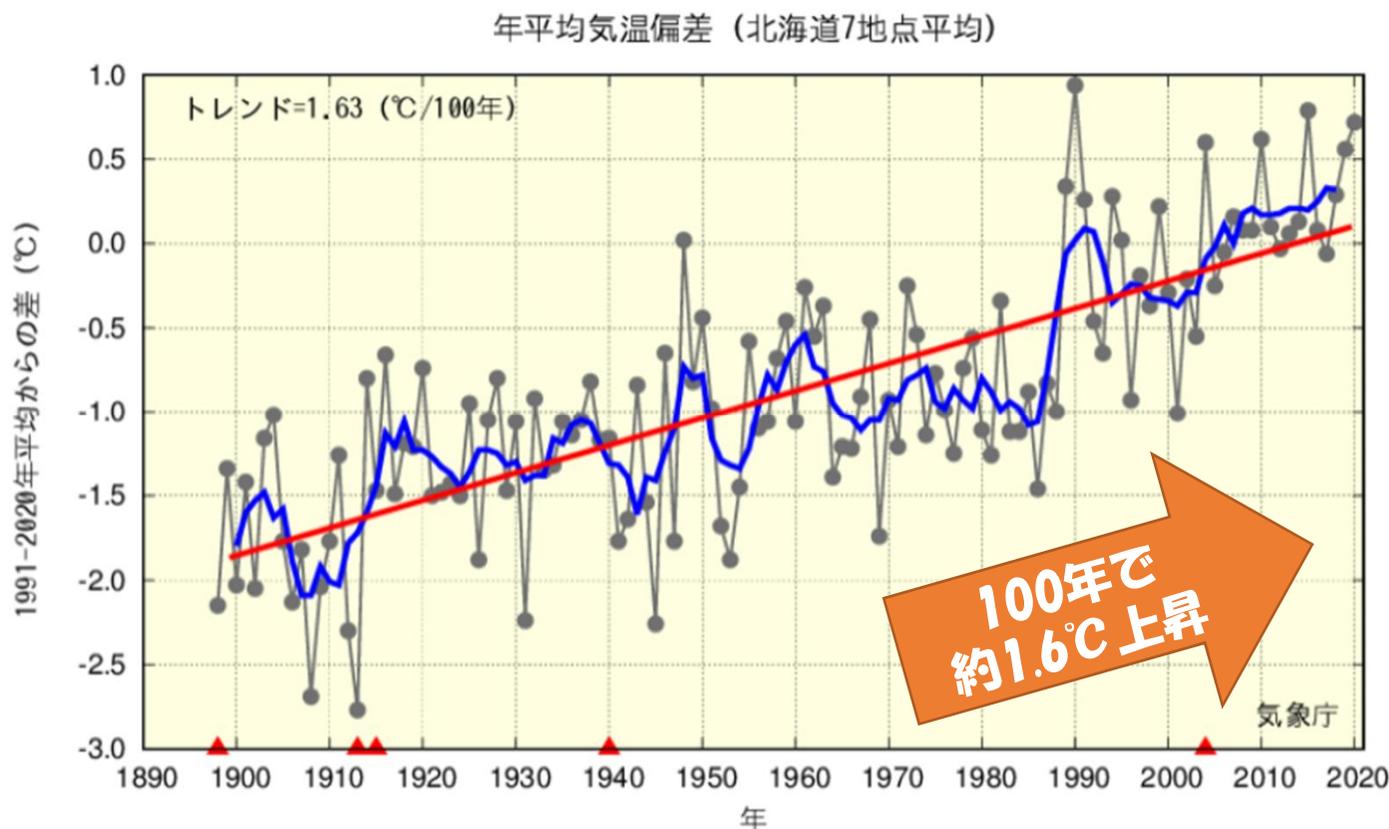
本調査では、北海道におけるさつまいもを取り巻く現状・課題について整理し、試験研究機関に情報収集を行うとともに、北海道内で課題に対応しながらさつまいもの栽培に取り組む生産者や集出荷団体に対してヒアリングを実施し、事例集として取り纏めました。

現在、北海道でさつまいもを栽培する生産者を始め、関心のある方にご覧頂ければ幸いです。

# 1 さつまいもを取り巻く現状・課題

## 1-1 北海道の気象状況の変化

気象庁の報告書では、「北海道の年平均気温は100年当たり約1.6°Cの割合で上昇している。北海道の気温の変動の要因として、温室効果ガスの増加による地球温暖化の影響に、自然の変動や都市化の影響が重なっているものと考えられる。」とされています。



注)北海道7地点（旭川、網走、札幌、帯広、根室、寿都、函館）を平均した年平均気温偏差の経年変化（1898～2020年、単位：°C）細線（黒）は隔年の基準値からの偏差、太線（青）は偏差の5年移動平均値、直線（赤）は長期的な変化傾向を示す。基準値は1991～2020年の30年平均値。7地点のいずれかにおいて観測場所の移転があった年を横軸上に▲で示す。移転の影響を除去するための補正を行った上で計算している。

## 1-2 国内のさつまいも作付面積及び収穫量の推移

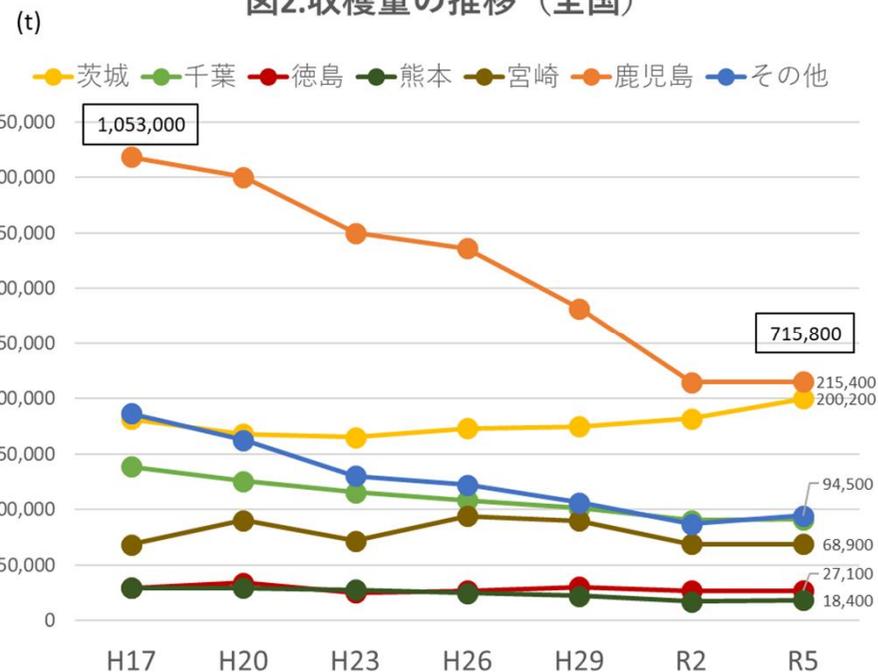
国内のさつまいもは、鹿児島県や茨城県等を中心に作付けされていますが、生産者の高齢化等による労働力不足や、宮崎県及び鹿児島県等のさつまいも産地において、平成30年に我が国で初めて確認された「サツマイモ基腐病(※)」の影響などにより、全体的に減少傾向となっています。

図1.作付面積の推移（全国）



出典：農林水産省統計部「作物統計」

図2.収穫量の推移（全国）



出典：農林水産省統計部「作物統計」

※：サツマイモ基腐病

サツマイモ基腐病（以下「基腐病」）は、さつまいもがDiaporthe destruens（ディアポルテ・デストルエンズ）という糸状菌に感染することにより、生育不良や萎れ、葉が黄変、赤変した後、茎葉が枯死してしまう病害です。収穫後は、罹病株から二次伝染となり、ほ場全体に広がります。

[サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策\(令和4年度版\) | 農研機構 \(naro.go.jp\)](https://naro.go.jp/)

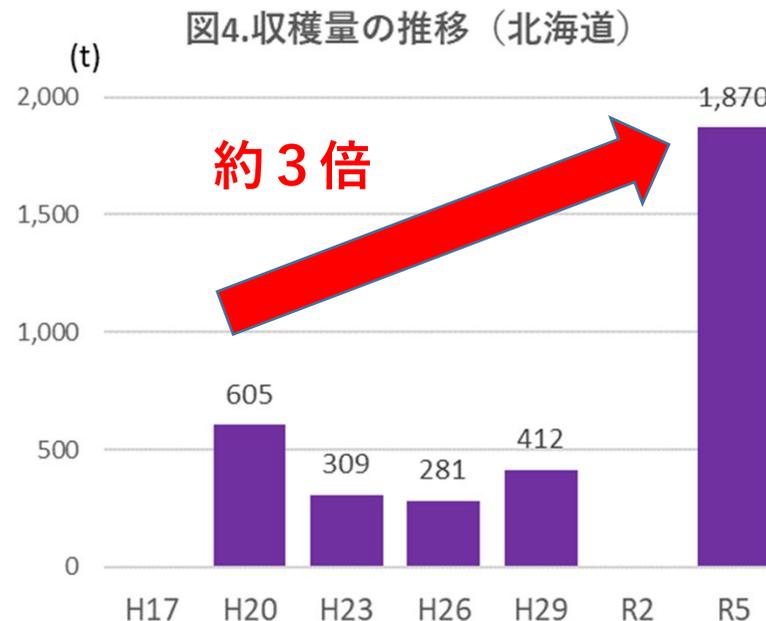
## 1-3 北海道のさつまいもの作付面積及び収穫量の推移

全国的にはさつまいもの作付面積が減る一方で、近年の気候変動等の影響により、北海道の作付面積は、広がる傾向があります。図3のとおり、北海道の作付面積は平成17年の5haから徐々に拡大しており、令和5年には100haと急増しています。



出典：農林水産省統計部「作物統計」

※出典年度は、かんしょにおいては作付面積3年ごとに全県調査が行われていることから、北海道でも数値を把握できる年度を出典している。



出典：農林水産省統計部「作物統計」

※H17年及びR2年の北海道の収穫量は「…(事実不詳又は調査を欠くもの)」であるため表示していない。

# 1-4 国内の年間卸売数量、市場価格及び用途別消費の推移

図5の農林水産省統計部の青果物卸売市場調査報告による、国内のさつまいもの年間卸売数量は、作付面積の減少に伴い、平成17年の25万5千トンから令和4年の19万4千トンへと減少しています。

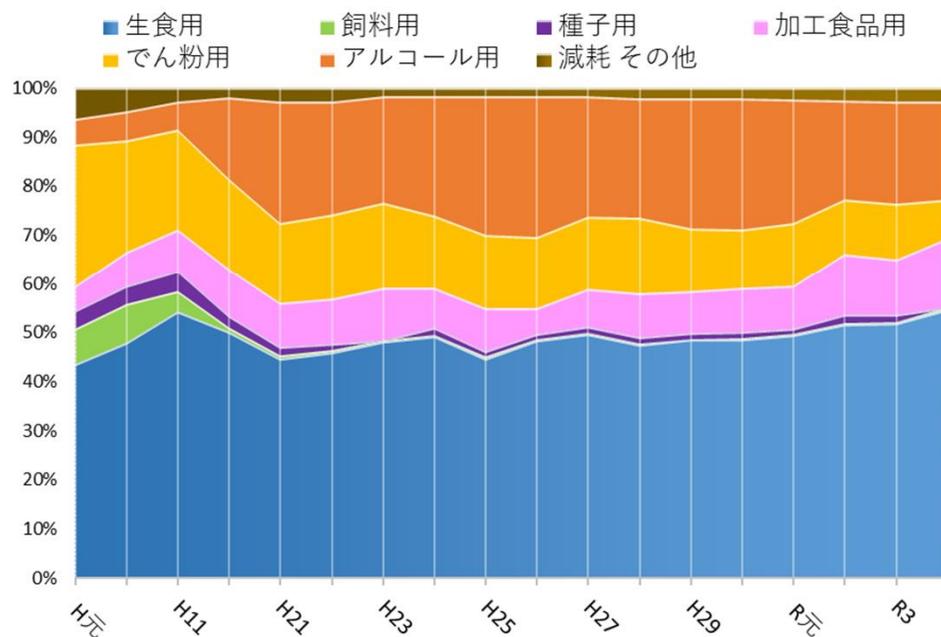
また、国内の市場価格は、平成17年の157円/kgから令和4年の287円/kgへと約1.8倍に大きく上昇しています。

図5.年間卸売数量と市場価格の推移



出典：農林水産省統計部「青果物卸売市場調査報告」

図6.用途別消費の推移



出典：都道府県報告に基づく農林水産省地域作物課調べ

図6より、さつまいもの用途別消費は、生食用の割合がほぼ半分を占めています。また、アルコール用は、平成21年まで増加しましたが、近年は落ち着きを見せています。でん粉用は、減少傾向にあり、加工食品用は、令和元年から微増傾向にあります。

# 1-5 北海道の1世帯あたり年間購入数量と支出金額の推移

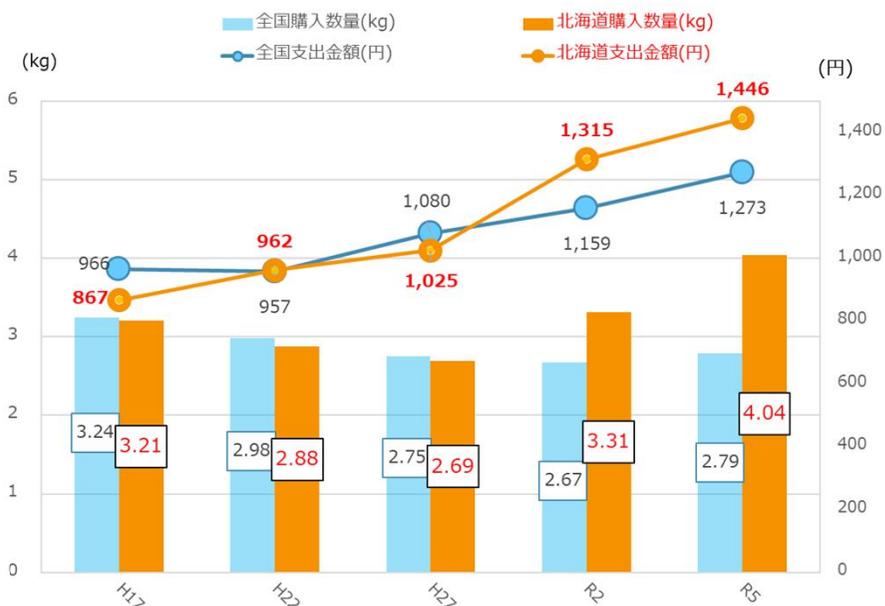
図7の道内のさつまいもの1世帯当たりの年間購入数量は、全国に比べ平成17年から平成27年までは漸減していましたが、令和2年からは全国を上回り、令和4年時点では全国よりも1.25kg多いです。

また、道内のさつまいもの1世帯当たりの支出金額は、平成17年から令和5年にかけて緩やかに上昇しており、需要があることが分かります。

図8.北海道の年間購入数量（令和5年）



図7.北海道の1世帯当たりの年間購入数量と支出金額の推移



出典：総務省 「家計調査家計収支編」(二人以上の世帯)

図8より令和5年の地域ごとの1世帯当たりのさつまいもの年間購入数量は北海道が最も多く、北海道でのさつまいもの人気が高いことが分かります。

出典：総務省 「家計調査家計収支編」(二人以上の世帯)

## 1-6 北海道のさつまいもイベント

北海道では、さつまいも人気の高まりを受け、令和5年10月に焼き芋にフォーカスした北海道初のイベント「さっぽろ焼き芋テラス2023」が札幌市内中島公園で開催されました。

市内の焼き芋や大学芋の専門店6店舗が出店し、自社農園で生産したさつまいもの焼き芋や定番の干し芋、芋けんぴ等が販売されました。

### ★さっぽろ焼き芋テラス2023★



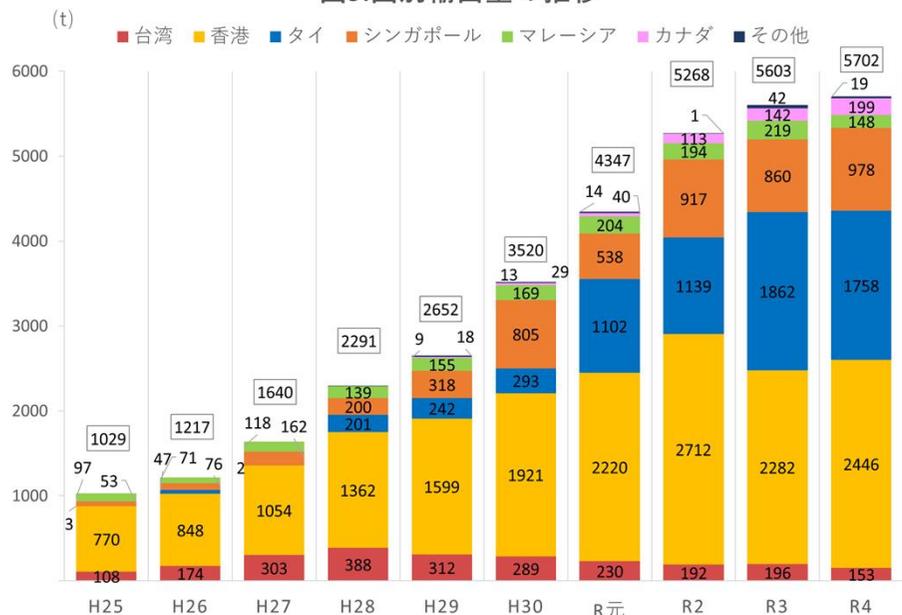
イベントでは多くの行列ができ、商品の売り切れも続出するなど賑わいを見せていました。また、店舗ごとに販売するさつまいもの品種や焼き方が異なるため、食べ比べを楽しむことができ、これまで知らなかった味に出会うことができました。定番品の他にも、さつまいもを使ったスイーツも販売されており人気を博していました。



# 1-7 海外への輸出の推移

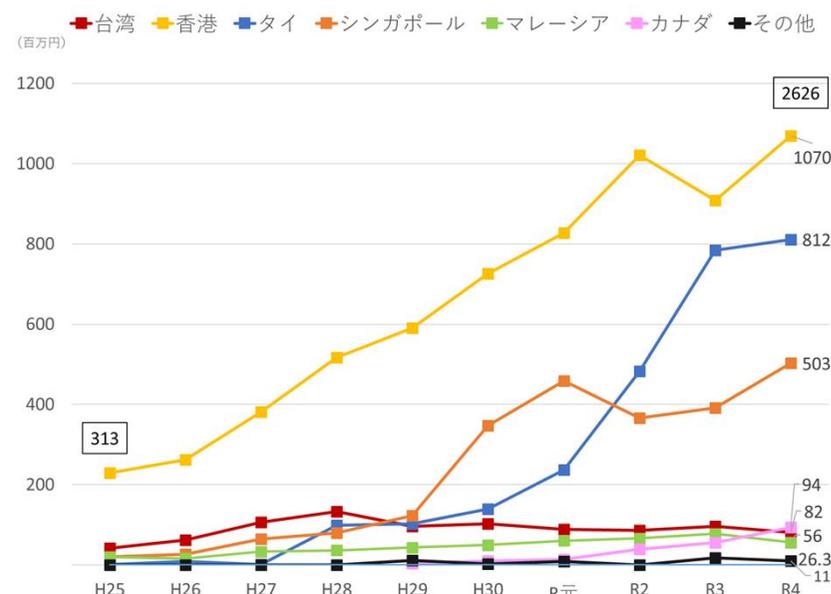
近年、国内に留まらず、海外でも日本産さつまいもが人気を博し、輸出が伸びています。図9より、令和4年の輸出量は、平成25年の1,029tに比べ約5.5倍の5,702tとなっています。また、同じく輸出額も平成25年に比べ約8.4倍の26億円となっています。また、輸出先は、平成25年は香港が大半を占めていましたが、近年はタイ、シンガポール等の東南アジアを中心に拡大しています。

図9.国別輸出量の推移



出典：財務省「貿易統計 農林水産物品目別実績」

図10.国別輸出金額の推移



出典：財務省「貿易統計 農林水産物品目別実績」

【参考】

- 「農林水産省「かんしょをめぐる状況について(令和5年6月農林水産省農産局地域作物課 ([siryou-6.pdf\(maff.go.jp\)](http://siryou-6.pdf(maff.go.jp)))より日本産のさつまいもは甘みが強いことから海外でも人気があり、令和4年の輸出額は、野菜の中でいちごに次いで第2位となっています。
- 「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略(農林水産業・地域の活力創造本部(令和5年12月改訂))」では、かんしょ・かんしょ加工品を輸出重点品目として設定しており、令和7年までに輸出額28億円を目指すこととしています。  
(農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略の進捗：農林水産省 ([maff.go.jp](http://maff.go.jp)))
- 「北海道食の輸出拡大戦略<第III期>(令和6年3月)」では北海道が誇る食の魅力や価値のさらなる向上と世界への展開をめざす姿とし、農産物の展開方向については産地における輸出体制の高度化の促進、長期貯蔵や長期出荷が可能となる技術の導入等としています。  
(北海道食の輸出拡大戦略について - 経済部食関連産業局食産業振興課 ([hokkaido.lg.jp](http://hokkaido.lg.jp)))

## 1-8 北海道におけるさつまいも栽培の課題

近年、北海道内で作付けが増加してきたさつまいもですが、本調査において、文献等から情報収集した中で、苗の確保や貯蔵時のコスト等といった課題があることが分かりました。

様々な課題がある中、一般財団法人いも類振興会の「いも類振興情報120号（平成26年）」において北海道総合研究機構が報告した「北海道におけるサツマイモの生産と試験研究の現状」では、以下の4つが課題として示されており、本調査における情報収集時の課題が集約されていたことから、これらを基本として、各関係者にヒアリングを進めることとしました。

### 育苗体制の確立

- ・挿し苗を府県から購入していることによる輸送時の苗質の低下、輸送コストの増大、育苗時の暖房コストの増大への対策が必要

### 低温耐性品種の 育成・選定

- ・北海道での栽培期間は短いため、早期肥大性に優れる品種や低温条件での展葉・発根が従来より優れる品種の育成が必要

### 貯蔵施設の確保

- ・冬の北海道で貯蔵するためには莫大な暖房コストがかかるため、バイオガスプラントからの余剰廃熱の有効活用など独自の貯蔵施設の確保が必要

### 新たな 需要の創出

- ・「粘質で甘味の強い」といった北海道産サツマイモの特徴を活かし、干しいもや菓子などの加工品の開発・販売を民間業社と進めるなど、新たな需要の創出が必要

## 2 研究機関へのヒアリング結果

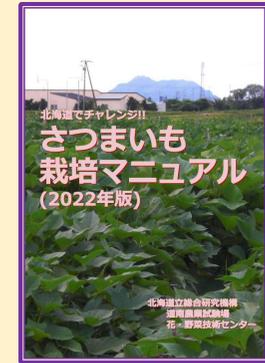
「北海道立総合研究機構 花・野菜技術センター」に、「さつまいも栽培マニュアル(※)」について、さつまいもの特徴や栽培等を伺いました。

※：「さつまいも栽培マニュアル」とは…

上記センター及び道南農業試験場において作成し、北海道でのさつまいもの栽培に適した品種の情報、無加温ハウスで切り苗を用いた苗作りの方法及び簡易的なキュアリングの方法等が解説されています。

これからさつまいもの栽培を始めようとする方は、是非ご一読ください。

[https://www.hro.or.jp/upload/42740/sweetpotato\\_manual\\_2022.pdf](https://www.hro.or.jp/upload/42740/sweetpotato_manual_2022.pdf)



**作業機械は新たに購入するとコストが気になりますが、他の作物で使用する機械も使えますか？**

さつまいもを栽培する上で、苗の定植機、収穫用のディガー、茎葉をカットするチョッパー、つる切り機を必要としておりますが、ばれいしょ用の作業機械も使用可能です。



出典：農林水産省HPより

**北海道では輪作体系を基本としながら農業が展開されていますが、新しくさつまいもを取り入れた場合、相性の良い組み合わせはありますか。**

前作後作の作物は関係なく作付けできます。ただし連作は避けてください。畑作地帯の輪作にさつまいもを組み入れることは可能ではありますが、手作業の部分もあり、ローテーションの中で小さな面積のほ場があればそこで作付けをするのが無難です。大きく作るにはそれなりの需要も必要です。

**北海道だと水田地帯も多いですが、畑地化や田畑転換した農地でも栽培はできますか？**

水田地帯でも作付けすることは可能ですが、水はけを良くしてください。水はけが悪いと生育不良になり、そこから雑草が生える原因になります。

**近年、肥料の価格高騰による生産者の経営にも影響が生じていますが、有機栽培は可能ですか？**

さつまいもは投入する肥料が少なく、茎葉が生い茂るため、雑草や虫の付着も非常に少なく、農薬もほぼ使用しません。有機栽培に向いている作物といえるでしょう。また、乾燥に強い作物のため灌水は行いません。マルチで覆えば水分は十分確保できます。

**北海道で栽培する上で、現在は種苗確保するには府県からの購入が大部分を占めると伺っていますが、その際に注意すべきことはありますか？**

「サツマイモ基腐病」には特に注意してください。種苗の段階で感染している可能性がありますので、種苗は信頼できる業者から購入してください。

大きな面積で栽培する場合は、購入した種苗を早い時期から増殖を始める必要があります。早くなった分、育苗施設の電気代が嵩み（地表に電熱線を通して暖める）コストが増えるので注意が必要です。

**【参考】北海道さつまいも懇話会（平成23年設立）**

消費者、食品企業、市場、生産者、行政、普及センター、農業試験場、大学などが幅広く連携し、自由な立場で意見交換できるネットワークを構築することを目的に活動しています。道産さつまいもの優位性をアピールし、関係者間で情報共有に取り組んでいます。

**北海道庁では**

近年、気候が変動している中、北海道では、道内で作付けが拡大し、今後新たな戦略作物となる可能性のある「さつまいも」の生産を振興しています。



道東の芽室町で、さつまいもの研究栽培に取り組む「農研機構 北海道農業研究センター 芽室研究拠点」に、新品種「ゆきこまち」の品種特性や栽培技術等について伺いました。

農研機構は、温暖化により北海道でもさつまいもが栽培されるようになってきたことから冷涼地でも収量が確保でき、低温耐性のある北海道向けのさつまいもの新品種「ゆきこまち」を10年かけて開発しました。

寒冷地でも生育が良好であり、収量も他の品種に比べて多く、育苗では温度が高いと蔓が伸びやすく徒長した苗になってしまうので、上げすぎないようにとのことです。

近年のさつまいもの需要増加と品不足の打開策として、これまでさつまいもの経済栽培が難しいとされた冷涼な地域での新たな産地形成に役立つことが期待できます。



「ベニアズマ」と「ゆきこまち」の塊根



「ゆきこまち」の焼きいも



「ゆきこまち」のほ場

舌触りが滑らかで雪のような口どけから「ゆきこまち」と命名。  
用途としては、生食向けが中心。澱粉がしっかり入っています。  
お菓子やスイートポテトといった加工には向きますが、干しいものは、干しいもの一部が硬く白化した「シロタ」が発生しやすいため、見た目や食感に影響が生じやすいです。

### △農研機構の登録品種の増殖には 許諾が必要です△

種苗法改正により、令和4年4月1日から農研機構のカンショ登録品種の増殖には許諾が必要です(無償)

- 収穫した芋から種芋や切り苗を得て、これを自分の圃場に定植すること
- 購入した種芋や親株からツル苗等を採り、これを自分の圃場に定植すること

カンショ登録品種の許諾の申請については農研機構のHPより確認できます→

[kansho\\_poster.pdf\(naro.go.jp\)](https://kansho_poster.pdf(naro.go.jp))

### 3 生産者及び集出荷団体への ヒアリング結果

## ベジタブルワークス株式会社（真狩村）

後志管内真狩村でブロッコリーなどの野菜を中心に生産する「ベジタブルワークス株式会社」にさつまいもの栽培について伺いました。



### ～さつまいも栽培の取組のきっかけ～

・ 輸出向けの栽培依頼があったことをきっかけに取組を開始。自社で荷室の加温が可能なトラックを所有しており、物流面で有利であったことも依頼があった理由と考えられます。

### ～さつまいも栽培について～

・ 苗は自社の大型ハウス内にトンネルと電熱線を配備して地温を保ち育成させます。(初年度にウイルスフリー苗を購入し、切り苗で培養して確保しています。)

・ 定植は霜の影響が無くなる5月中旬を目安に開始し、手作業で行います。

・ 令和5年産の収穫は9月上旬から開始し約1ヶ月かかり、同時に種芋用も確保します。洗浄・選別は自分たちで行います。さつまいもは連作しておらず、収穫後はチョッパーで切った茎葉をすき込み、緑肥として利用しています。今年度のほ場は前作にブロッコリーを作付けしていました。

・ 青果用は道内外へ自分たちで出荷します。  
国外ではシンガポール等にも輸出しています。

### ★基礎データ★

- 栽培面積(令和5年産)  
3.0ha
- 作付品種  
シルクスイート
- 取組開始年次  
令和3年から



広大なさつまいものほ場



さつまいもの成長をチェック



## 有限会社 鈴鹿農園 (芽室町)

十勝管内芽室町で小麦や大豆、ばれいしょなどとともに、さつまいもを有機栽培している「(有)鈴鹿農園」に伺いました。

### ～さつまいも栽培の取組のきっかけ～

・7年程前に親戚が家庭菜園で上手に栽培されていることに影響を受け、栽培に取り組み、その後販売用として着手し現在に至ります。

### ～さつまいも栽培について～

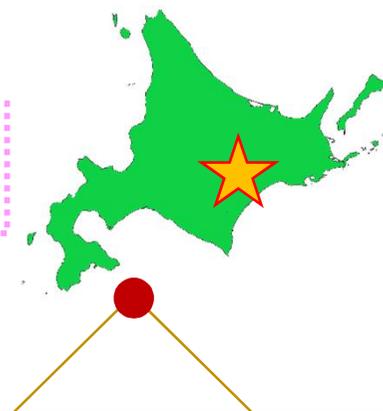
・育苗は3月中旬から5月上旬まで行います。1棟のハウスでビニールは1重、中にトンネルを施します。種苗は初年度はウイルスフリーの苗を用いて栽培し、その後種芋で更新してしました。(一部生産者への販売も手掛けています。)育苗期間は地中に熱線を入れて温度管理しています。日差しが強い日は日光により苗が焼けてしまうので注意しています。

・定植は5月連休明けから開始。定植機械は手作業と時間が変わらず、補植も必要なため、手植えで行っています。

・収穫は、専用のチョッパーで茎葉を切断した後、ディガーで掘り取り、手作業により拾い上げています。

・キュアリングは、自社の倉庫で温度と湿度を保ち30時間実施。その後、温風と加湿で温度と湿度を保ちながら段階的に出荷し、翌年3月まで貯蔵します。

・青果用はふるさと納税向けで既に完売済み。近隣のマルシェや道外の青果業者にも出荷している。加工向けはほとんどが干しいも用で、町内の菓子店にも販売しています。



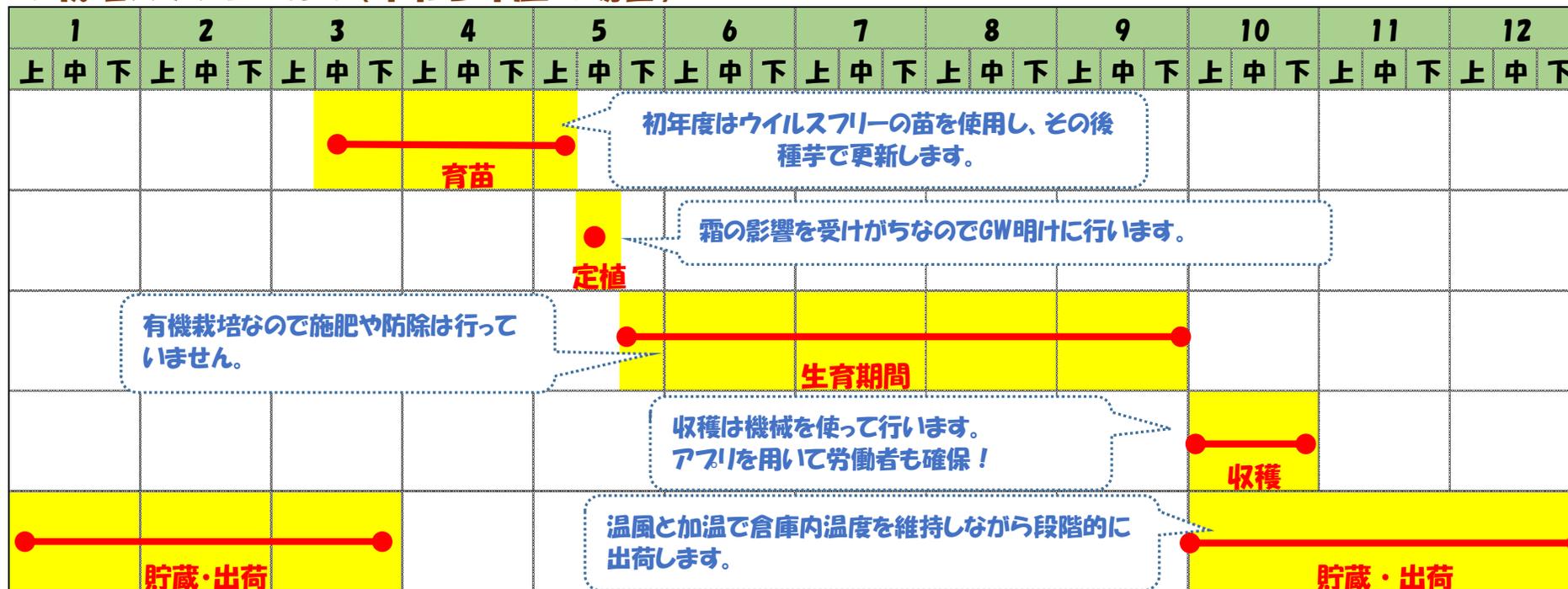
### ★基礎データ★

- 栽培面積(令和5年産)  
3.8ha
- 作付品種  
べにはるか、高系14号
- 取組開始年次  
令和元年から



販売する干しいも

## 🍠栽培スケジュール🍠(令和5年産の場合)



貯蔵庫に保管中のさつまいも (上・右)

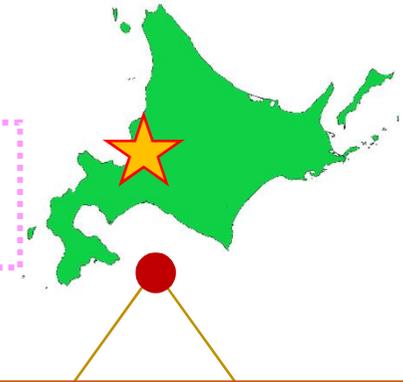


～さつまいもの栽培を  
考えている人に～

まずは作付けしてみる事です。  
水はけを良くしていれば無肥料  
でも育ちます。

## 有限会社 大塚ファーム (新篠津村)

石狩管内新篠津村でミニトマトなどとともに、さつまいもを有機栽培している「(有)大塚ファーム」に栽培及び干し芋加工について伺いました。



### ～さつまいも栽培の取組のきっかけ～

・さつまいもの栽培を始めたきっかけは、17年前に野外教育の公益財団と提携して子ども向けの農業体験プログラムの中でさつまいも栽培を行い、上手くいったことがきっかけ。さつまいも栽培は農薬や化学肥料を使用しない有機栽培でも可能であることから取組を進めてきました。

### ～さつまいも栽培について～

・育苗は4月上旬から6月中旬まで行います。ハウスではビニールを数層重ね、無加温で育苗します。令和5年に農研機構の許諾を取得したので、今後は販売も考えています。

・定植は6月中旬から開始し、機械を使って定植します。有機栽培のため施肥や防除は行っておりません。

・収穫は、10月上旬から月末まで機械を用いて行います。キュアリングは、自社の貯蔵庫で温度と湿度を保ち1週間実施。その後、貯蔵庫の温度を保ちながら段階的に出荷し、翌年3月まで貯蔵します。

・青果用は焼き芋用のみで販売。ほとんどが加工用でさつまいもが糖化した11月下旬ごろから自社の工場で干しいもの製造を開始します。

### ★基礎データ★

○栽培面積(令和5年産)  
4.8ha

○作付品種

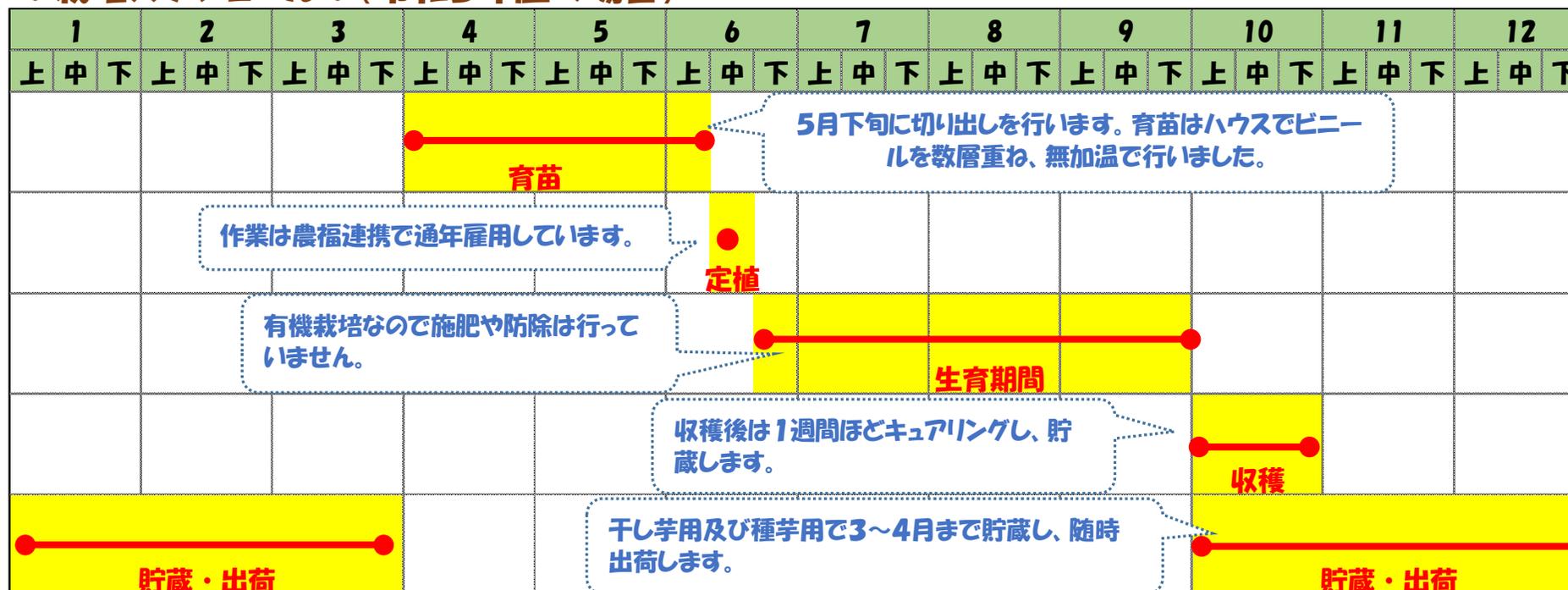
べにはるか、べにあずま、シルクスイート、パープルスイートロード、玉豊

○取組開始年次

平成18年ごろから



#### 🍠栽培スケジュール🍠 (令和5年産の場合)



一定温度で貯蔵中のさつまいも



干しいも加工の様子

#### ～さつまいもの栽培を考えている人に～

輪作体系にさつまいもを取り入れることはお勧めします。栽培には人手を必要とするため、機械化が必須です。有機栽培は手間がかかるが美味しければ購入してくれる消費者は必ずいます。



さつまいもの本格的な生産や加工の取り組みを始めた、「北海道エア・ウォーター・アグリ株式会社」に、お話を伺いました。

### 栽培について

焼きいもや干し芋の需要の高まりを受け、十勝や上川などの農家と契約し令和5年から約30haでさつまいもの取扱いを開始。

品種は、高系14号、べにはるか、シルクスweetを主体として他にも新品種のゆきこまち等計8品種を作付け。

収穫したさつまいもは、貯蔵施設に運搬され、ほとんどが加工用に仕向けられ、道内の自社加工場にてペーストやダイスなど用途に応じて加工されます。

種苗は本州の種苗会社から取り寄せて契約農家に配付していますが、一部は自社農園の栽培ハウス内で育苗しています。

苗の定植から収穫までは基本的に契約農家が行いますが、繁忙期の時などは、収穫作業は、自社オペレーターが作業を請け負うこともあります。

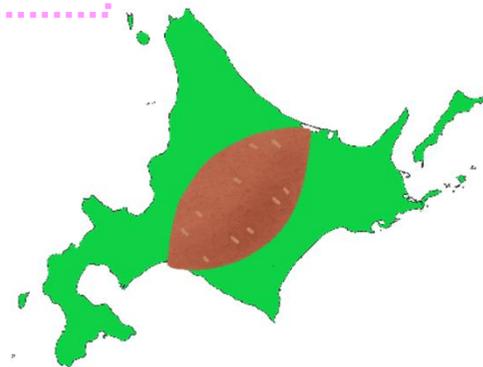
収穫物は全量買い取りで、自社が配付する HALF コンテナに収穫物を収納していただければ、自社のトラックが引き取りに伺います。

### 今後の展望

今後は作付面積の大幅な拡大を目指していきます。

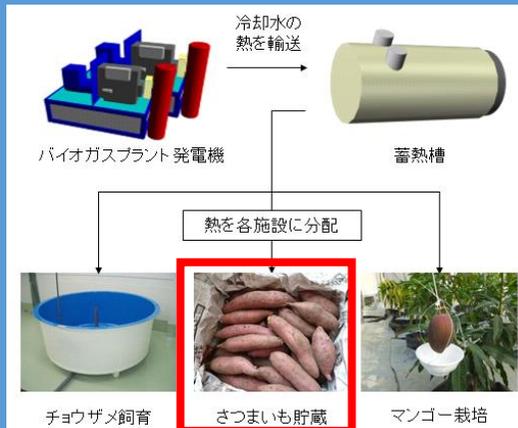
栽培が順調だった契約農家からは「また作付けしたい」という声があり、それを聞いた近隣農家からもチャレンジしてみたいとの声もあります。

契約には、作付面積や土壌状況の条件はありませんが、粘土質のほ場では苦慮したので、こちらからも情報提供しながら検討してもらえればと思います。また、栽培を指導する者も派遣します。



バイオガスプラントの熱を活用したさつまいもの育苗と貯蔵に取り組む「鹿追町環境保全センター」に、お話を伺いました。

「鹿追町環境保全センター」では、家畜ふん尿や家庭から出る生ゴミを発酵させ、発酵する際に生産されるメタンガスを利用して発電を行っています。



発電時に発生する余剰熱をお湯に替え、チョウザメ試験飼育施設やさつまいも貯蔵設備、マンゴー栽培ハウスといった余剰熱利用施設へと分配し、飼育の効率化や長期保存・栽培を実現させています。

出典：鹿追町HP



ハウス内のバイオガスプラントの暖房機器

さつまいもの栽培自体は平成21年に開始しましたが、当時は貯蔵施設が無かったため長期保存ができないことが課題でした。そこで、設備内の温度・湿度を調節できる貯蔵設備を新たに導入したことにより、収穫後のキュアリングや長期間の保存を実現させています。

#### 育苗の取組について

育苗ハウスは2棟あり、2月中旬から育苗を始めています。防寒対策として、ハウスはビニールを3重構造とし、冬でも日中は30℃を確保できます。夜間はバイオガスプラントの熱を利用して20℃を維持しています。



育苗ハウス

### 苗の定植作業について

定植は霜の影響を考慮し、6月に施設から少し離れた町内のほ場（1.5haほど）で行いました。今年（令和5年）は2畝マルチチャーでマルチがけ（生分解性マルチを使用）し、品種は「べにはるか」を主体として、**新品種「ゆきこまち」も100本定植**。ほ場は石礫が多いため、機械は使用せず、すべて手植えで行いました。

### キュアリング及び貯蔵

キュアリング(※)は専用の施設で温度30~40℃、湿度90%以上に設定し3日間行います。その後、同施設で貯蔵のため庫内温度を13~15℃に変更し、10月から翌年4月にかけて、町内の農畜産物加工センターに出荷。貯蔵庫は2つありますが、片側で10トンの収容が可能です。

※キュアリングとは、イモの傷口が自然にコルク化して治る性質を利用した貯蔵のための操作。貯蔵中にイモが腐敗するのを防ぎます。

### 加工及び商品化について



農産物加工センター

長期保存されたさつまいもは、専用の乾燥庫や加工施設がある町内の農産物加工センターで、鹿追町のブランド干しいも「甘姫（あまひめ）」に加工され、町内道の駅で販売されています。（※販売時期要確認）



町内の作付けほ場



さつまいもの貯蔵庫



町内で販売される干しいも

さつまいもの本格的な生産振興に取り組み始めた、「JAあさひかわ」に、お話を伺いました。

JA管内におけるさつまいも栽培の始まりは、管内の農業者が10aの農地で試験的に栽培。栽培の可能性を確認した後、永山地区9戸の農家が栽培に着手しました。

JAとして産地形成やブランド化を目指すため、栽培技術、生産振興、販売加工を一体化した組織の確立を目指し、令和5年1月にプロジェクトチームを発足しました。

JA女性部においても独自のレシピを考案し、試食会でさつまいも料理を披露しています。

## 種苗の確保について

種苗の9割は道外から購入していますが、苗がJAに到着するまで日数を要し、必要なときに必要な数を入手できないことがあったため、各農家が自家で種苗を確保することがコストが最も掛からず一番良い手段です。

## 新品種の試験栽培

本年から新品種の「ゆきこまち」の育苗に試験的に取り組みました。4月からの取組でハウス内は無加温でしたが、苗は順調に生育し、無加温でも育苗が可能であることが判明しました。「ゆきこまち」については、冷涼な地域に適した品種ということで収量性や食味にも期待しています。



さつまいも料理の試食会



さつまいもコロッケ



さつまいもご飯



さつまいもおはぎ



さつまいもポタージュ

さつまいもレシピ

出典：こうほう旭川市民 令和5年9月号より



高校生の収穫体験

## 栽培について

定植は、1台の定植機を各農家が共有して実施。10a以下の栽培農家は手植えで行いました。

防除は、さつまいもは管理がほとんど不要な作物のため防除しない農家もありますが、除草、幼虫駆除に取り組む農家もありました。

収穫は1畝用ポテトディガーを使用。さつまいもは傷が付きやすいため、低速でゆっくりと収穫を行うことが必要です。

## 選果から貯蔵について

収穫後、農家がさつまいもを選別して個別に市内の青果会社に配送します。青果会社は、各農家から集荷されたさつまいもを洗浄、キュアリングを行い、甘みが乗る時期まで自社の貯蔵庫で保管します。べにはるかは3~4ヶ月間、シルクスweetは1~2ヶ月間貯蔵します。

選別された50g以下のさつまいもは、市内の加工会社に粉末加工用として出荷されます。

## 販売から加工など

青果用は市内の小売店で販売されます。消費者からの旭川産のさつまいも評価は概ね好評で、旭川でさつまいもを栽培していることにも驚かれます。JA直営店舗「あさがお」でも販売フェアを実施し、甘くて美味しいと反応は上々です。

市内菓子店の「壺屋」では、人気商品「栗金時」の原料であるさつまいもを関東・九州産から旭川産（令和4年産のさつまいもを使用）に切り替え販売しています。



ゆっくりと収穫



キューピーとのコラボ販売



出典：壺屋HP 27

さつまいもの生産振興に取り組んでいる  
「ホクレン野菜果実花き課」にお話を伺いました。

### 北海道におけるさつまいも栽培の情勢と今後の展望

北海道では今から10年ほど前に、個々の農家単位でさつまいも栽培は行われていました。

全国的には、九州や関東（茨城県等）を中心に作付けされていましたが、九州方面でサツマイモ基腐病が相次いで発生し、生産量は減少傾向であります。

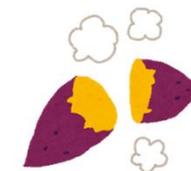
このような中、東南アジアで「ヤキイモ」ブームが巻き起こり、生産量は落ちているものの需要は高まり続け、卸値は上昇しています。

ホクレンでは14次中期計画において、新規振興作物としてさつまいもに注目し、今後、**受入体制や苗の供給技術の確立**を検討しながら、生産拡大をすすめたいと考えています。



被害を受けたさつまいものほ場

出典：農研機構生研支援センター  
「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」



出典：DON DON DONKI公式サイト

### 種苗確保の課題

種苗については、本州の種苗会社から購入する場合、到着日の調整や病害虫のリスク、ポッド苗の場合は輸送コストがかかる等、課題が山積みです。

このため、令和5年度は実証実験で道内2か所で苗の増殖試験を行っています。

生産者個々で苗を増殖、育苗してもらう形が理想ですが、育苗には温度が必要で、高騰する光熱費の負担が大きく、現状では生産者が新たに育苗に取り組むのは難しい状況にあり、種苗供給体制の構築が必要です。



## 新たな集出荷施設と輸出の取組

日本青果物輸出促進協議会が実施する「大規模かんしょ輸出確立実証事業」に参画し、令和4年に稼働した苫小牧埠頭の集出荷施設において、道内のJAが集荷した土付きのさつまいもを洗浄選別し、適切な温度・湿度下で一元的に管理して輸出に取り組んでいます。

令和4年の輸出量は、集荷した100トンのうち選別後の8トンは都府県産との端境期である11月に輸出しました。

海外の店舗では、店頭で焼きいも機を設置して焼きいもの状態で販売したり、自宅で焼くために青果で購入する方もいます。また、都府県産とともに店頭で並べられますが、アジアでは日本より北海道の認知度が高いため、販売面では有利と考えています。



輸出用の段ボール



出典：DON DON DONKI公式サイト

## さつまいもの栽培とPRについて

さつまいもの栽培は、育苗と収穫後の貯蔵における温度管理等で少し大変かもしれませんが、労働力は少なくて済む作物と思います。投入肥料も少なくて良く（ほとんど必要ない）、現代に適した作物といえるのではないのでしょうか。（収穫はてん菜やばれいしょとは異なり、傷が付かないように慎重に行う必要があります。）

北海道でもさつまいもが栽培できることをもっとPRできればと思っています。府県産と同等レベルの食味評価が得られれば、農家のモチベーション向上にもつながり、作付意欲も増大すると思います。



出典：広報ホクレン

さつまいもの輸出に向け、北海道でも令和4年に港湾運送業の「苫小牧埠頭株式会社」により苫小牧市内に道内初のさつまいも選果施設が整備されました。

原料の受入から、洗浄、選別、箱詰、出荷まで行います。輸出用製品には段ボールに印字されたQRコードを通して生産者情報を把握できるトレーサビリティシステムが導入され、食の安全性の担保に繋がっています。令和5年度は道内23のJAから集荷し、500トン进行国内及び国外へ出荷する見込みです。

## 選果工程

### 1. 原料受入



さつまいもは低温障害を受けやすいので、倉庫内の温度と湿度はスマートフォンで管理されています。

### 2. 洗浄



浸漬した後、傷防止のため水圧洗浄で汚れを落とします。

### 3. 選別



目視により等級を判断し、輸出用、国内用、加工用に選別していきます。

### 4. 箱詰め



階級は機械(重量計測器)によって自動的に振り分けられ、梱包されます。

# 出荷



### 【トレーサビリティシステム】



輸出用の製品にはQRコードが添付されており、輸出先でも生産者等の情報を確認することが可能です。

## 4 まとめ

## 5 まとめ

### さつまいもの調査結果より

今回の調査において、把握したさつまいも栽培に関する課題について、関係機関及び生産者へヒアリングを行い、北海道で本格的にさつまいもの栽培が広がり始めて数年の間で、課題の解決に向けた取組は進んでいることが分かりました。今後も産地化に向けた取組は更に大きく広がっていくと予想されます。また、地域の環境に合わせた栽培及び地域で協力して取り組むことで、付加価値の向上にも繋がり、「北海道産のさつまいも」として広く認知されることが望まれます。

最後に、本調査にご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。  
誠にありがとうございました。

### 北海道総合開発計画について

令和6年3月に第9期北海道総合開発計画が閣議決定されました。北海道開発局のHPで公開されていますので、ぜひご覧ください。

北海道開発局HPより [国土交通省 北海道開発局 \(mlit.go.jp\)](http://mlit.go.jp)



### 北海道総合開発計画について

ページ内目次

- ▼ 北海道総合開発計画と第9期計画の概要 ▼ 地域づくり推進ビジョン ▼ 官民の垣根を越えた「共創」
- ▼ 地域づくりの支援に関する情報 ▼ お問い合わせ

#### 北海道総合開発計画と第9期計画の概要

北海道総合開発計画は、北海道開発法に基づき、北海道の資源・特性を活かして、我が国が直面する課題の解決に貢献するとともに、地域の活力ある発展を図るため、国が策定する計画です。

我が国では、昭和26年10月に最初の計画が樹立されて以降、令和5年度まで8期約70年にわたって、各期の計画に基づいて北海道開発を推進してきました。

令和6年3月12日、9期目となる北海道総合開発計画(以下、「第9期計画」という。)が閣議決定されました。

この計画の目標は次の二つです。計画期間は、2024(令和6)年度から概ね10年間です。

目標1  
「我が国の豊かな暮らしを支える北海道～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」

目標2  
「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」

計画の推進に当たっては、北海道の生産空間というリアルをデジタル技術の活用で補強・補完することをコア概念として、官民の垣根を越えた「共創」、社会変革の鍵となるDX・GXの推進、フロンティア精神の再発掘、及び戦略的・計画的な社会資本整備により実効性を高めながら、主要施策を展開することとしています。

国土交通省北海道開発局は、目標の実現に向けて、他官庁、地方公共団体、住民、NPO、企業、教育機関等の多様な主体と連携・協働して、各種の施策を推進していきます。

● 第9期北海道総合開発計画の中心的メッセージ

## 共に北海道の未来を創る